



年 組 名前

道新で  
ワークシート

## ドローンや乳牛管理 I T 技術活用

市は2017年度から補助事業を始めた。施設園芸用ハウスで使う自動換気設備の整備費(上限22万円)と、トラクターへの衛星利用測位システム(GPS)を活用した自動操舵機能の導入費(同50万円)を補助対象にしていた。補助率はいずれも費用の4分の1で、2年間で計27戸が申請した。

本年度は新たに農業用ドローン購入費(同50万円)や牛個体管理システムの導入費(同50万円)、営農日誌を電子化する「クラウド営農ソフト」の導入費(上限10万円)にも補助対象を

## 富良野市

【富良野】市は本年度、情報通信技術を活用したスマート農業の促進に向け、市内の認定農業者への補助を強化する。農業用ドローンや乳牛の体調を自動管理する「牛個体管理システム」などに補助対象を広げ、農家の経営基盤強化や労働力不足対策に結びつけたい考えだ。(伊勢裕太)

## スマート農業補助拡大

## 経営強化や人手不足対応

市がスマート農業の普及を促す補助強化に踏み切った背景には、離農者の増加や労働力不足などの問題がある。市内の農家戸数は10年の713戸に対し、17年は598戸と16.1%減少。一方、1戸あたりの作付面積は10年の12.9畝から17年には15.5畝と20.1%増えており、大規模化に伴い、担い手の確保が深刻化している。

富良野市内の農家戸数と1戸あたりの作付面積(単位は畝)

	2010年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
戸数	713	700	681	673	652	634	619	598
作付面積	12.9	13.2	13.5	13.8	14.2	14.7	14.9	15.5

市農林課は「農業者の担い手不足や高齢化は喫緊の課題。農業者からの要望に柔軟に対応し、IT技術を使った農業の省力化を進めていきたい」としている。

2019年5月10日朝刊旭川・上川版(記事は再編集しています)

①記事中の表を読み取り、富良野市内の農家戸数と1戸あたりの作付面積の変化について、「農家戸数」と「作付面積」という2つの言葉を用いて説明しましょう。

②なぜ富良野市では、スマート農業に取り組む農業者に対して補助をするのですか。できるだけ理由をたくさん書きましょう。